

令和 8 年 6 月 2 4 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

鳥取県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鳥取市立青谷中学校	鳥取市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
鳥取市立青谷中学校	https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/aoya-jhp/%E6%8E%A2%E7%A9%B6%E3%81%82%E3%81%8A%E3%82%84

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
鳥取市立青谷中学校	https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/aoya-jhp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%A9%95%E4%BE%A1	

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒

・実施している

・実施していない

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

特別の教育課程「探究あおや」では、「ふるさと青谷の自然、文化、歴史について、様々な人とのつながりの中で探究的に学ぶことを通して、ふるさとを思う心や課題を解決し未来を切り拓く力を養い、主体的に自己の生き方を考える生徒を育成する」という目標を掲げ、特別に教育課程を編成して実施した。

3年は「海」、2年は「紙」、1年は「大地」のテーマを設け、サーフィン体験、青谷かみじち遺跡や青谷の伝統産業である和紙に関わる体験活動を行って、ふるさと青谷のすばらしさや魅力を学ぶ機会を設け、その上で、これらの活動を探究的な学びへと結びつけた学習活動を行った。

また、探究的な学習活動のまとめとして、全学年が文化祭で成果発表をし、次の探究的な学びへと結びつけることができた。そして、地域の小学校と共にふるさと青谷について考え、自分たちにできることを実行していく「みらあおプロジェクト」では、青谷の魅力を伝えるポスターを制作し、鳥取駅や空港に掲示していただいた。ふるさとの魅力発信を通して、ふるさとを思う心を育むことができた。

学校評価アンケート等を実施し、以下の結果となった。

- ・今住んでいる地域の行事に参加している（肯定的回答 83% ※昨年度 81%）
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（肯定的回答 73% ※昨年度 69%）
- ・「探究あおや」では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる（肯定的回答 94% ※昨年度 82%）

これらのアンケートの結果から、昨年度に引き続きふるさと青谷を思う心や、主体的に課題の解決に向けて動こうとする姿勢が育ちつつあることが伺える。

今後の課題として、今年度作成した「探究スキル」（探究的な学びを支える、学び続ける力につながるスキル）の指標を活用し、「探究あおや」だけではなく他の教科ともつながり、教科横断的に生徒の学びに向かう力を育てていけるよう取り組んでいきたい。

また、この指標を小学校とも共有し、小中9年間の学びを支える力を少しずつ育ていけるように取り組んでいきたい。そして、小学校だけでなく地域とも共有しながら、様々な場面で生徒の成長を支えていく仕組みを築いていきたい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育目標は「少数精鋭～自らの未来を切り拓く青谷町教育の推進～」であり、取り組みの3本柱として、①学力の向上、②「探究あおや」の推進、③ウェルビーイングな学校づくりを掲げた。そのうち、①「学力の向上」と②「探究あおやの推進」は往還する関係であり、「探究スキル」を軸として学び続ける力を育てていくことが学力向上につながると考えた。また、探究的な学びの中で、協働的に学ぶ場面や体験的な活動を通して様々な人の考えや生き方に触れることが③ウェルビーイングな学校づくりにも大きく関わっていると考えた。

探究的な学びの視点をもって様々な活動に取り組んでいくことで、学力向上とウェルビーイングな学校づくりの両方をより効果的に育んでいくことができると期待している。昨年度に引き続き、探究的な学びの視点との相関を調べるためにも、アンケート等を活用し、生徒の有用感や実際の学力に関わる数値等との関係を見ていく必要がある。

4. 課題の改善のための取組の方向性

課題改善の方向性として大きく2つのことに取り組んでいきたい。1つ目は、「探究スキル」の指標を生徒、教員ともに共通理解を図って授業等に取り組んでいくこと、2つ目は、先に挙げた指標を小学校や地域とも共有していくことである。

まず、探究的な学びのための共通の視点として、①課題の発見・計画、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の4つの学習プロセスと、それぞれのプロセスで目指す姿を示したルーブリックを教員、生徒ともに共有をしていく。そして、教科横断的に「探究スキル」（学びに向かう力）を育んでいけるようにしたい。例えば、各教科の授業の中でも適宜「探究スキル」のどのプロセスに関わっているのかを掲示しながら授業を行うことで、生徒自身も「探究スキル」を意識的に磨いていくことにつながると考える。そして、ある教科で育んだ「探究スキル」が他教科での学びにも生かされるなど、「探究スキル」を軸として各教科を結び、すべての教科で往還しながら「探究スキル」を育んでいきたい。そして、その力が学力向上にもつながると期待している。

また、これらの取り組み内容を小学校や地域とも共有し、中学校だけでなく青谷町の教育として推進していくことが理想である。中学校の3年間だけではなく、小学校から中学校までの9年間、そして地域での学びを含めて長期的かつ多面的に児童・生徒の成長に携わることで、より深く学び、意識的に「探究スキル」を磨いていけるのではないだろうか。そのためにも、小学校と合同の職員研修会の実施や地域の方への「探究あおや」に関わる部分の情報提供を実施するなど「探究スキル」の共通理解を図りたい。そして、各教科での学びが「探究スキル」を軸としてつながっていくという共通認識をもって授業等に取り組めることを目指していきたい。さらには、中学校だけではなく地域と連携した教育になるように体制を整えていきたい。